

# 第3学年 国語科 学習指導案

日時 令和5年11月24日(金) 5校時  
児童 3年生 10名

1 単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み，食べ物のひみつについてせつめいする文章を書こう  
～食べ物がかせになろう～  
教材名「すがたをかえる大豆」「科学読み物での調べ方」「食べ物のひみつを教えます」(光村図書3年下)

- 2 単元の目標
- (1) 主語と述語との関係，修飾と被修飾語との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。 [知識及び技能] (1) カ
  - (2) 段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えることができる。 [思考力，判断力，表現力等] C (1) ア
  - (3) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。 [思考力，判断力，表現力等] B (1) ウ
  - (4) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力，人間性等」

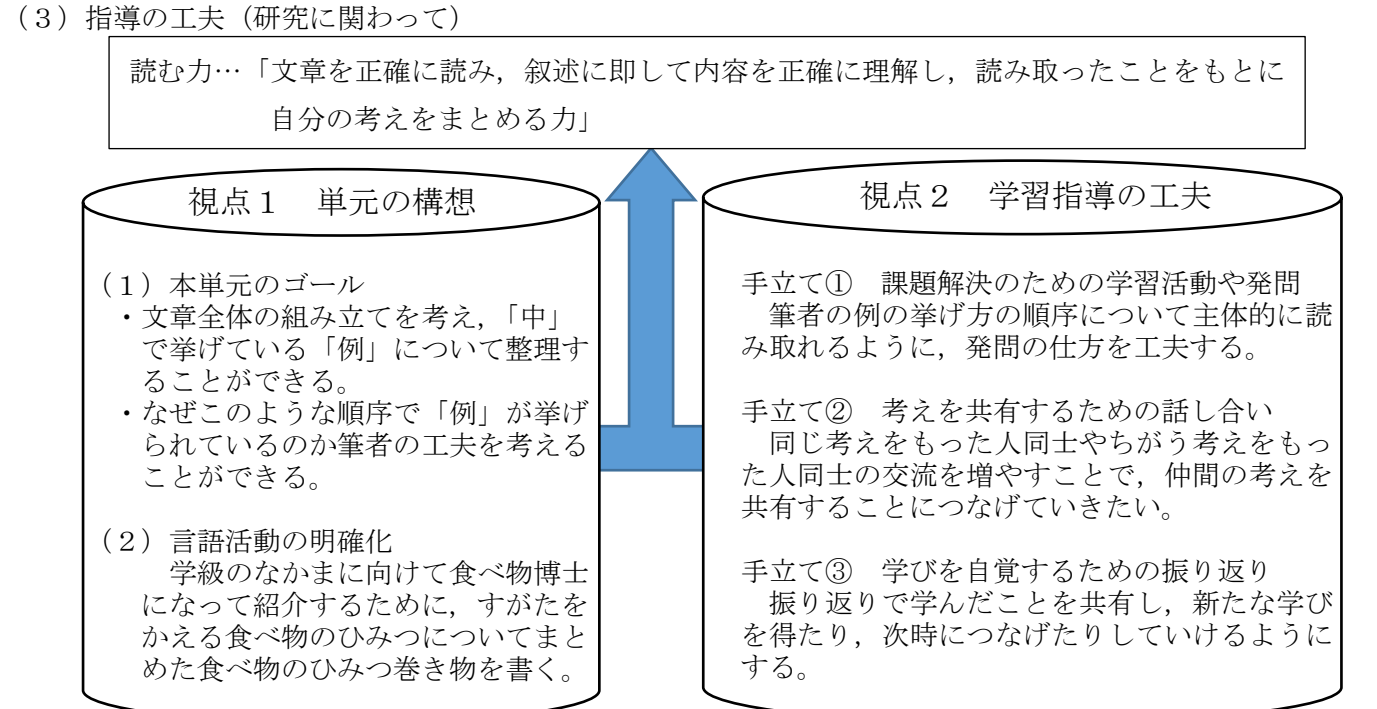
3 単元について

(1) 教材について

本単元は，大豆が様々な食べ物に姿を変えていっていることを説明する文章である。尾括型の文章構成になっており，大豆からできたそれぞれの食品について「手のくわえ方」「工夫」という視点から書かれている。この文章に書かれている食品の順序は，手のくわえ方が簡単なものから複雑なもの，形や色が大豆に近いものからそうではないもの，取り入れ方や育て方の違うものという順序になっている。説明文を書く際に意識すべき，説明する順序や文章の構成に触れることができる教材となっている。

(2) 児童の実態について

3年生の児童はこれまでに，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉える学習に取り組んでいる。前に学習した教材文の「こまを楽しむ」では，段落の文章構成を捉えることができるようになってきた。しかし，段落相互の関係について捉えることが苦手である。そこで，文章構成を捉え，キーワードや接続語，指示語を抛り所に，叙述を基にしながら，筆者がどのような順序で大豆をおいしくする工夫をあげているか，自分の考えをもたせたい。



4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (1)カ	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 C (1)ア ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 B (1)ウ	・進んで本文を読み、説明される内容とそれを支える事例の関係に着目し、学習課題に沿って例のあげ方を見直し、食べ物のひみつを説明する文章を書いている。

5 学習指導計画 (15時間)

学習過程	時	主な学習活動	評価規準
見通し	1	○言語活動につなげるため、食べ物博士になってすがたをかえる食べ物についての説明する文章を書くという学習の見通しをもつ。 ○「すがたをかえる大豆」を語句の意味を確かめながら読む。	
構造と内容の把握	2	○「はじめ・中・終わり」の文章構成を捉える。 ○それぞれの段落のおいしく食べる工夫の例を読み取る。	【知】指示する語句や接続する語句・中心となる語や文などを見つけて線を引いたり何度も読み直したりしているか確認する。 [発言・ワークシート]
精査・解釈	3	○「問い」の文を入れる場所を考え、「問い」の文を書く。 ○①～⑧段落の要点を読み取る。	【思】根拠となる言葉や写真を囲み、順序の工夫を説明しているか確認する。 [発言・ワークシート]
	4(本時)	○「中」の順序について、筆者がなぜ工夫をしているかを読み取る。	
	5	○筆者の説明の仕方の工夫を読み取り、今後に生かせるようにワークシートにまとめる。	
設定	6 7	○学んだ書き方を基に、紹介したい食べ物の題材を選定する。	
検討	8	○おいしく食べる工夫や、食品の例を図や表に整理する。	【思】図や表に表し、姿を変える食品について整理しているかを確認する。 [発言・ワークシート]
	9		
	10		
推敲	11	○文章の組み立てと例の書き方を考え、食べ物のひみつを書いていく。	【態】書く順序を意識し根拠をもとに工夫して説明文を書いたり、進んで見直しをしたりしているかを確認する。 [メモ・振り返り]
	12	○お互いに交流し、順序性について見直しをしている。	
	13	○文章の組み立てと例の書き方を考え、食べ物のひみつを書いていく。	
共有	14	○食べ物博士になって、学級みんなに食べ物のひみつを発表し、感想を伝え合う。	
	15	○学習を振り返る。	

6 本時の指導 (4/15)

(1) 目標

どんな順序で例を挙げているか筆者の工夫を捉えることができる。

(2) 評価規準

筆者の工夫が分かる、語や文・写真を見つけ、理由を書くことができる。

ねらいを達成している児童の姿・見取りのポイント	ねらいを達成していない児童への支援
順序を表す言葉や要点などに着目し、見つけている。 ・「いちばん分かりやすいのは」「次に」などの順序を表す言葉 ・「いる」「にる」「ちがう食品にする」など工夫の仕方を表す言葉	既習事項や本文・掲示物を、事例を挙げる順序の手掛かりにする。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点 ◎評価
導入 (10分)	1 前時の学習を想起する。	・前時の児童の振り返りを手掛かりに、本時の学習へとつなげる。
	2 本時の学習課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">筆者はなぜこのじゅんじょでれいをあげているのだろう。</div>	
展開 (30分)	3 課題解決の見通しをもつ。 ○教材文を音読する。	・音読のめあてを確かめる。
	4 課題を解決する。 ○自力解決をする。 筆者が、どんな順序で例を挙げているかを考える。  ○グループ・全体で交流する。	・主体的に考えられるような発問をする。 (手立て①)  ・根拠となる言葉や文を囲む。  ・考えごとに根拠を伝え合い、考えを広める。 (手立て②)
	5 まとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">筆者がこのじゅんじょであげているのは、分かりやすくするため。</div>	◎【思】筆者の工夫が分かる語や文、写真を見つけ、理由を書くことができる。 〔発言、ワークシート〕
終末 (5分)	6 本時の学習を振り返る。 ○説明文を書くときに使ってみたい工夫や友達の考えの良さについて理由も添えて書く。	・使ってみたい工夫や友達の考えの良さについて理由をつけて振り返らせる。(手立て③)
	7 次時の学習を確認する。	・次時は、筆者の説明の工夫の仕方について読み取っていくことを確認する。

(4) 板書計画

<p>すがたをかえる大豆</p> <p>国分 牧衛</p>		<p>① 筆者はなぜこのじゅんじよでれいをあげているのだろう。</p>		
		せつぞく語	おいしくするくふう	食品
		③ いちぼん 分かりやすいのは	いる にる	いり豆 に豆
		④ 次に	ひく	きなこ
		⑤ また	ひたす すりつぶす 熟する しぼり出す にがりをくわえる	とうふ
		⑥ さらに	むす ナットウキンをくわえる むした米か麦 コウジカビをませる 似てつぶした大豆 くわえる	なつとう みそ しょうゆ
		⑦ これらの他に	取り入れる ゆでる 日光を当てない 水をやって育てる	えだまめ もやし

○かんたんなじゅん

○びつくりするじゅん

まとめ

・読む人が分かりやすくするため。

7 考察

【成果】

- ・言語活動の明確化で、最後まで意欲的に学習することができた。
- ・筆者が工夫の例をどのように挙げているかを捉え、自分たちが説明文を書くときに生かすことができた。
- ・「わがともよ」という視点があることで、子どもたちは振り返りがやりやすくなって良かった。
- ・自力解決の前の発問  
「みんなも食べ物博士になって、説明する文を書く時、すごく役立つよ。どんな順に例を挙げているのだろう。」

【課題】

- ・「自力解決」の前のペアの話し合いで、考えが出なかったのが、どう発問すれば良かったか。
- ・接続語を取り上げなかったのが、読み取りの時にもっと深めなければと感じた。